

お花畑のツキノワグマ



文と写真◎中下 留美子 Nakashita Rumiko

野生動物研究領域

北アルプス山麓のツキノワグマ

行動解析のためGPS付首輪が装着されている。(写真提供：瀧井暁子)

ツキノワグマは本州と四国の森林に生息する大型哺乳類です。広い行動圏を持ち、植物食を中心とした幅広い食性を持ちます。日本の豊かな森の象徴としてアンブレラ種^{*}とも言われています。ところが近年、人里に出没し農作物被害や人身事故を起こすなど人との軋轢^{あつれき}が多く報道されるようになりました。そのため、凶暴で怖いというイメージをお持ちの方も多いのではないのでしょうか。食べ物不足になると、畑や果樹、残飯などに誘われて人里に出没するクマがいます。一方で、北アルプスに生息するクマたちの中には、春は里山で樹木の芽吹きや山菜を食べ、夏になると雪解け後の新鮮な芽生えを求めて山を登り、高山帯のお花畑を利用するクマもいます。やがて夏の終わりが近づきドングリが実る頃、ふたたび山を下りて木の実でたっぷり脂肪を蓄え、冬眠に備えるのです。山岳域の厳しい自然と標高差を巧みに利用して生息しているクマたちです。

そんなクマのくらしを垣間見ることができ、おすすめの場所が燕岳から大天井岳、槍ヶ岳一帯の北アルプス表銀座と呼ばれる登山道です。氷河に削られてできたカル地形に広がるお花畑をしばらく眺めていると、黒々とした丸いものがそのそと姿を現し、シシウドやアザミの仲間を食べる様子を観察することができます。人里へ出没する困ったクマばかりが注目されがちですが、自然の中でたくましく悠々と暮らしているクマたちもたくさんいます。

山を訪れたときは、困ったクマを生み出さないためにも、絶対に野生動物に餌を与えてはいけません。ゴミも必ず持ち帰るようにしましょう。◆

つばきから
燕 岳から槍ヶ岳を望む北アルプス表銀座
槍ヶ岳の絶景と高山植物、野生動物
を一度に楽しめる魅力的な登山
ルート。



^{*} 多岐にわたる食性と広い生息地を必要とする種の保護を意識することにより、その地域の他の動植物が傘の下に入るように保全できるという概念。

表銀座で出会ったライチョウの親子
表銀座はもともとクマやカモシカの獣道。クマだけでなく、国の特別天然記念物で絶滅危惧種に指定されているライチョウなど多くの野生動物に出会える。

